

◆ 今週のコメント

- ・手足口病の定点当たり報告数は0.56(23例)で、先週の0.51より多く、過去5年平均値(0.12)を上回る値となっています。過去5年間の推移をみると、初夏を中心に流行のピークが見られますが、本年は第2週以降多い状態が続いています。年齢階級別にみると、1歳(7例)が最も多く、次いで2歳(5例)となっており、1歳と2歳で52.2%を占めています。
- ・麻しん(平成20年1月から五類の全数報告感染症)の報告が2例(第9週追加分を含む)あります。今年の累積報告数は8例となっています。
- ・レジオネラ症の報告が2例あります。本年の累積報告数は8例で、過去8年間(平成13年～19年)の同時期(0～1例)と比べて最も多くなっています。
- ・アメーバ赤痢の報告が1例で、本年の累積報告数は6例です。過去8年間(平成13年～19年)の同時期(0～6例)と比べると、平成19年の6例と同じ報告数で、最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

- ・定点当たり報告数は1.59で、過去5年間平均値(0.84)を上回っており、第6週以降増加傾向となっています。詳細はトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・二類:結核 3例(喀痰塗抹陽性 1例)【1月以降の累積報告数 59例(喀痰塗抹陽性 15例)】
- ・四類:レジオネラ症(肺炎型) 2例
- ・五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例
- ・五類:後天性免疫不全症候群(その他) 1例
- ・五類:麻しん 2例

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点 | 感染症名 | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------------|----------|-----|
| インフルエンザ* | インフルエンザ | 2.66 | 181 |
| 小児科 (降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎 | 7.29 | 299 |
| | ② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 1.59 | 65 |
| | ③ 手足口病 | 0.56 | 23 |
| | ④ 水痘 | 0.49 | 20 |
| | ⑤ 突発性発しん | 0.27 | 11 |
| 眼科 | 流行性角結膜炎 | 1.00 | 10 |

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

| 検出病原体(報告数) | 臨床診断名(採取週) | 検体名 | 検出病原体(報告数) | 臨床診断名(採取週) | 検体名 |
|------------------------|----------------------------|-----|--------------|---------------|-----|
| インフルエンザウイルス AH1型(3) | インフルエンザ(第9週) かぜ症候群(第8週) | NP | A群ロタウイルス(2) | 感染性胃腸炎(第8・9週) | FC |
| RSウイルス (1) | RSウイルス感染症(第6週) | NP | ノロウイルスGII(2) | 感染性胃腸炎(第8週) | FC |

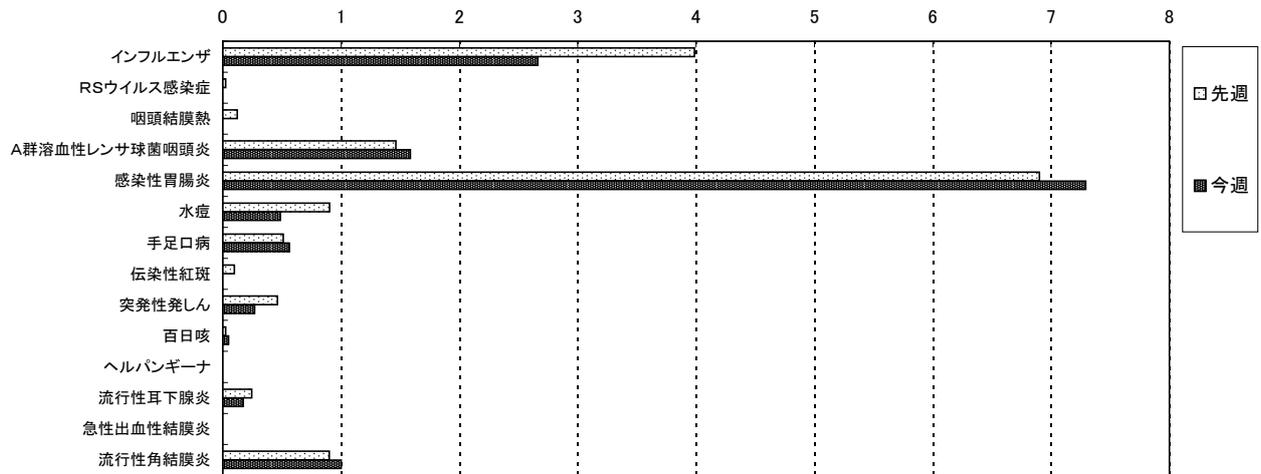
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

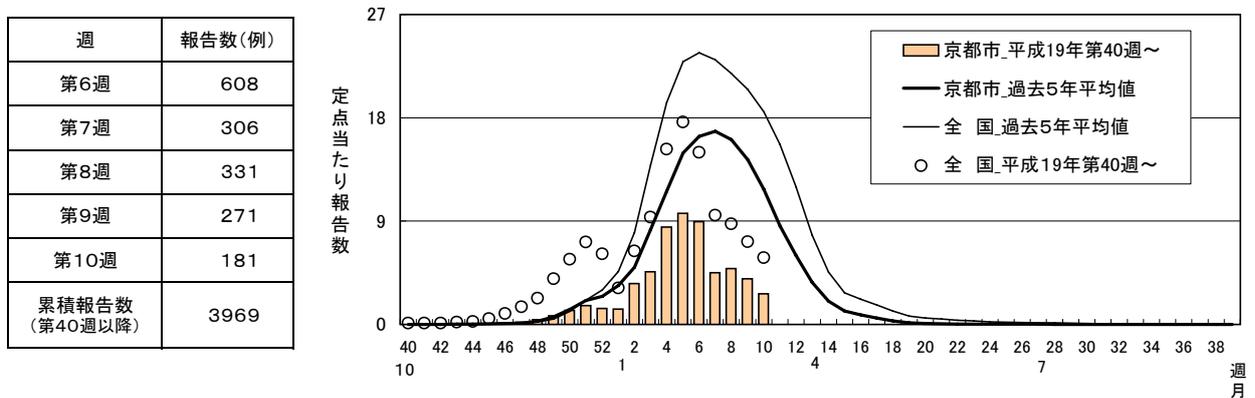
(注)京都市のデータは、平成20年3月14日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第10週)と先週(第9週)の定点当たり報告数の比較

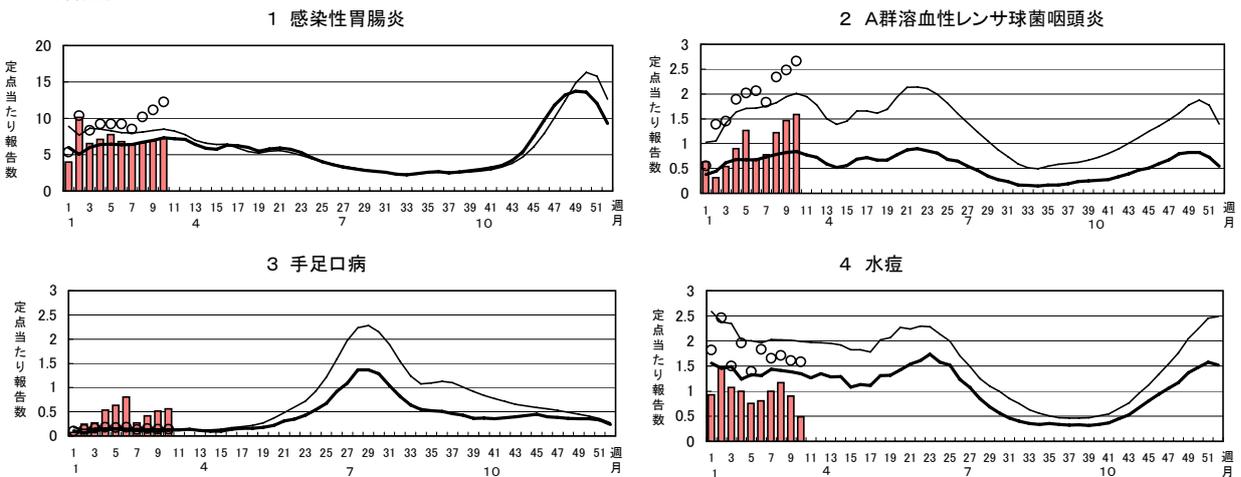


2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

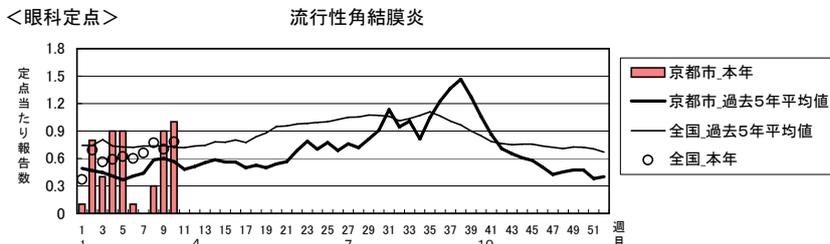


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

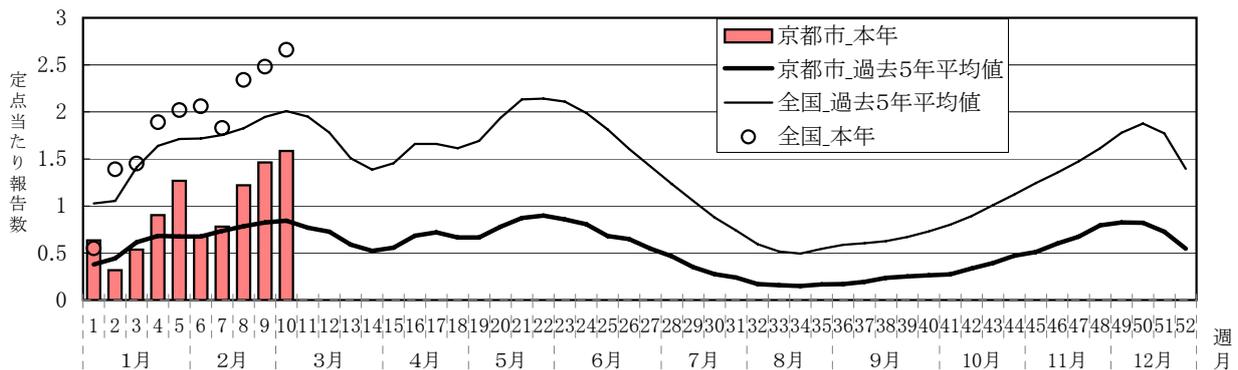


今週(第10週)のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

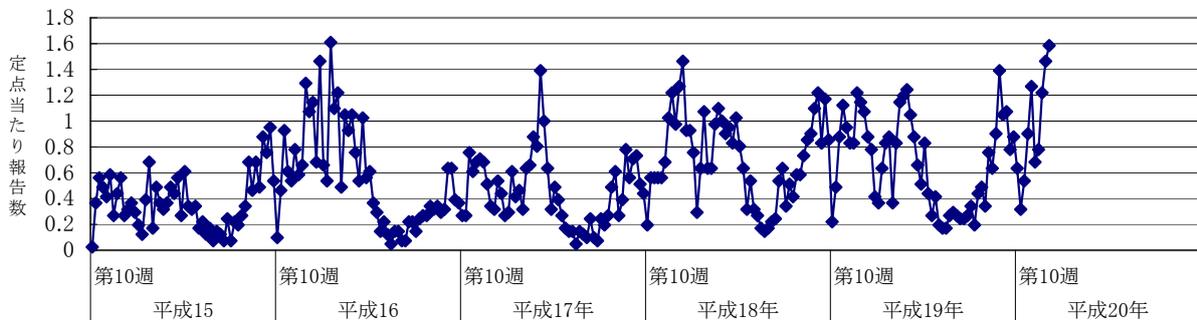
定点当たり報告数は1.59で、過去5年間平均値(0.84)を上回っており、第6週以降増加傾向となっています。また、本年度で最も多い値となっています。

平成15年以降の年推移をみると、今週は、平成16年(第16週)の1.61について多い値となっています。行政区別にみると、南区(8.0)で最も多く、先週に比べ、下京区、南区、右京区、西京区で多くなっています。年齢群別にみると、特に5~9歳の占める割合が80.0%と多くなっています。報告の多い地域がみられ、本市全体の報告数も増加していますので、今後の動向にご注意ください。

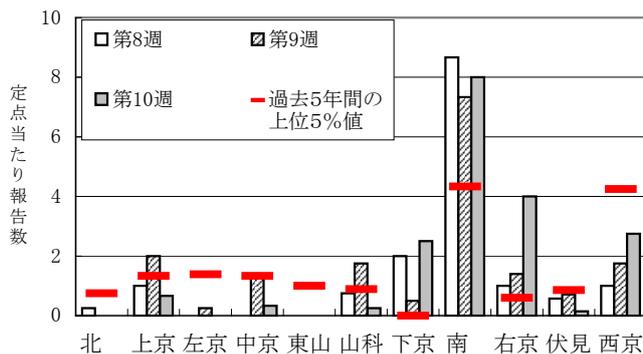
定点当たり報告数の推移



定点当たり報告数の年推移



行政区別定点当たり報告数の推移



年齢群別構成割合の推移

